

古里への愛情と誇りを持ち、その魅力を発信する――

北五和地区で地域おこしを行う鈴木曠雄さん。金谷コミュニティ委員会副会長を務めるとともに、地元の新たな観光資源の活用や手づくり広報紙「高福神」を発行するなど、ふるさとの魅力を発信しています。

【出会いとおもてなし】

鈴木さんは、静岡大空襲により父の実家である金谷地区の高熊へ移住。以来、今の自分があるのは地域の人のおかげと感じ続けていました。「幼少の頃から多くの人に助けられ、優しくされてきました。この恩は、返しきれるものではありません」と言い切る鈴木さんは、地域のために活動することを決めたそうです。

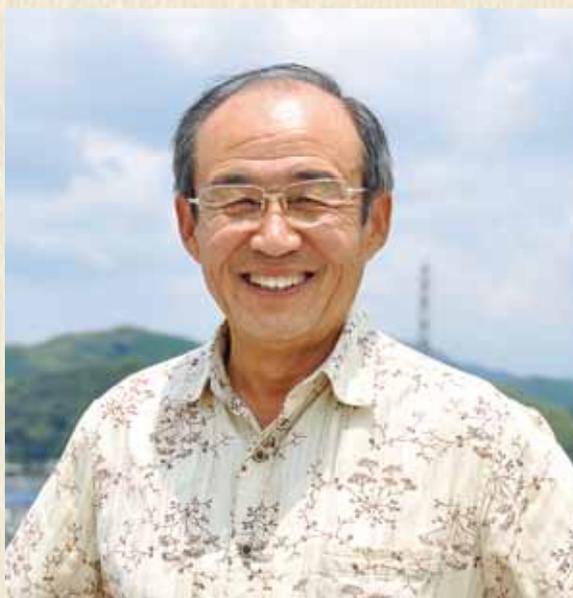


SLフェスタをきっかけに、鈴木さん

の呼び掛けで、北五和地区の「歓迎横断幕」を作

成し、SLへ手を振るなどのおもてなし活動を開始。また、約2万本の竹が自生する神尾の竹林や希少な断層「横臥褶曲」など、新たな観光資源としての活用を模索しています。

北五和自治会だより「高福神」を企画。平成20年4月から毎月発行しています。「年齢を重ねると、地域の友人たちに出会う機会が少なくなってきた。古里の今を伝えたい、取材や編集を通して会いたい、とい



北五和地区の魅力を発信  
鈴木曠雄さん（高熊）

【思いを知ってもらおうこと】

活動に携わっているうちに、頑張っている仲間や地域のことをよく知ってもらいたいと考えるようになった鈴木さんは、地域の情報などをまとめた手づくり広報紙・

う気持ちもありましたよ」と当時を振り返ります。今年6月には、第90号を発行。北五和地区の全戸だけでなく、出身者や金谷コミュニティの仲間など、関係団体へも配布先を広げました。

【未来につなぐ地域力】

「地域には、多くの宝物があります。その魅力を他人事ではなく自分事として、みんなに活用と継承を考えてほしいんです」と心境を語ります。活動の中で印象深いのは、地元の子どもたちとの交流だといいます。「新しいことや次代を担う若者との交流も大切。子どもたちと遊ぶと、今でも勉強になり気付くことがたくさんあるんですよ。住民同士が理解し合う機会を増やして、お互いに助け合える関係を築きたいですね」

また、地域間の交流にも意欲を持ち「広報紙の交換を行えば、それぞれの地域を知って、人が往来するチャンスができます。地域おこしや交流の出発点になるのではないのでしょうか。高福神も来年の第100号発行を目指して、地域の魅力などを共有・発信していきたいです」とまちおこしへの熱意は冷めません。

「自分の使命は、地域への恩返しです」と力強く語る鈴木さん。満面の笑顔から、古里への思いやりと愛情が伝わってきます。



五和小学校の遠足で児童に北五和を案内する鈴木さん

